

# 新琴似新聞

新琴似連合町内会と新琴似西連合町内会が合同で発行する、月刊機関紙「新琴似」。約2万世帯に配布され、住民から「新琴似新聞」の愛称で親しまれています。

創刊は、北区が誕生するよりも前の、1966年。当時は、町内会の役員などが持ち回りで記事を書き、発行頻度は年3回ほどだったそうです。1968年に、専属記者による取材を軸にした月刊紙にリニューアルし、大型スーパーの出店や地下鉄南北線麻生駅の開業など、時には町内会活動の枠を超えて地域のニュースを精力的に報じてきました。

同紙は、2018年度「町内会・自治会広報コンクール」(一般社団法人北海道町内会連合会主催)で最優秀賞を受賞。連合町内会部門10作品、単位町内会部門63作品、インターネット部門9作品、合計82作品の中から選出されました。

農業地帯から、ベッドタウンへ。大きく変貌を遂げた新琴似地域の歩みを、現在も記し続けています。



新琴似に密着して、半世紀。

地域を支える人たちの活動と

郷土史に、光を当てたい。

私が思う、  
北区の魅力・好きな場所

新琴似の東西を走る四番通りや六番通り、南北の第2横線などの区画割りは、屯田兵が入植した開拓当時のグランドデザインのままなんです。札幌市内でも、開拓当時の区画がここまで残っている地域は、それほど多くないのではと思います。住宅街の中に自然が残る「屯田防風林」も、開拓時代からの遺産です。

機関紙『新琴似』  
編集長 大平勲さん

1941年生まれ。北海道新聞の記者職を経て、2013年9月から機関紙『新琴似』に、6代目記者として参加。石狩市在住。

【月刊で、ここまで本格的な機関紙を発行している町内会は、全国的に珍しいと思います。屯田兵が入植した明治期以来、自治活動が盛んな地域であることも関係しているのかもしれません】

そう語るのは、機関紙『新琴似』の編集長、大平勲さん。大平さんは、元北海道新聞の記者。定年退職後、2013年に知人の紹介で『新琴似』編集室に参加しました。

「地域の皆さんを取材しながら、新琴似にゆかりの深い屯田兵や、かつて名産だった新琴似大根などを勉強にも励みました。切り前には、執筆作業が夜中まで及ぶこともあります。原稿の締め切り前には、執筆作業が夜中まで及ぶことがあるそですが、「新聞作りが好きだ

機関紙『新琴似』  
毎月1日発行  
新琴似地区(町内会加入世帯)  
戸別配布。発行部数約2万部  
情報の提供・問い合わせ先  
TEL.090-4876-6400(大平)



毎月8~12ページもの情報量。見出しや題字など新聞と同じ体裁で広告も多数掲載